

お気に入りのカフェを「無線LANスポットにするぞ!」の巻

インターネットマガジンは無線LANに前向きに取り組んでいる雑誌だ。インプレスの全社内も、とっくの昔に無線LAN化している。しかも、802.11g規格が正式に策定された直後に、社内の無線LAN環境をすべて802.11gにしてしまった。その話を聞きつけた筆者は、取り外した802.11bアクセスポイントがあるはずだと直感。取り外した1台を譲り受け、お気に入りのカフェの無線LANスポット化に着手することにした。



text: 五後ケース

ADSL回線の開通工事で予想外にいきなりつまづく……

ご協力いただいたのは渋谷駅近くの宮益坂にあるPhaidros Cafe。

もともとオーナーの戸田さんは店ではPowerBook G4をAirH[®]で接続していたのだが、やはり高速な通信をしたかったこと、常連客より無線LANを導入してほしいという要望があったことから、筆者の無線LAN導入のお願いをすんなり受け入れてくれた。

店の場所はNTTの局舎からの線路長が780メートル、伝送損失が14dBなので、ADSLには申し分ない環境だ。その結果を見て余裕で取りかかったつもりだったが、ADSL導入のところでいきなりつまづいてしまった。フレッツ・ADSLの設置は意外と時間がかかったのだ。筆者は最近Yahoo! BBからイー・アクセスに切り替えたのだが、申し込み後9日目で開通できたのでフレッツもすぐに開通できるだろうと思っていたら、申し込んでから7日後にNTTから電話が掛かって来た。それから工事日を決定するという段階を経るため、開通までに結局2週間以上掛かってしまった。

また、もともとオフィス用のビルということで、電話のモジュラージャックが部屋に用意されていないことも予想が甘かった。

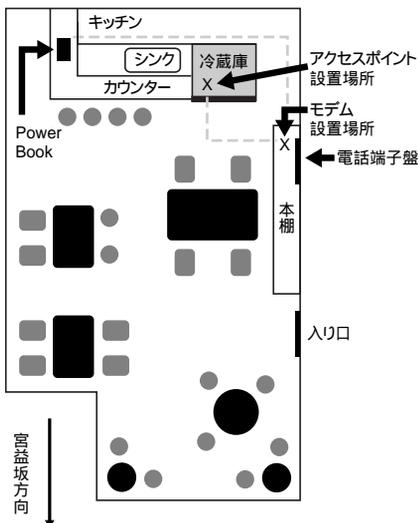
工事免許を持っている人でないとビル内の接続工事ができないため、局側の工事が完了しても接続端子の工事を手配しなければならず、また数日の時間を要してしまっただ。

9階では道路から電波を検知せずアクセスポイントの設置は問題なし

フリーの無線LANスポットで注意しないといけないのは電波の盗用利用だ。タダで使われてもいいという度量がない人はフリーの無線LANスポットを開設しないほうがいいくらいなのだが、度量があってもアクセスポイントを踏み台にして犯罪行為などに使われることはどうしても避けたい。

使用したアクセスポイントは電波の出力調整機能がないため、設置場所を工夫することで、店舗の外でなるべく電波を拾えないようにしようと試みた。しかし、店舗の場所が9階なので、下の道路からは一切電波を検知できないし、また道路を挟んで向かいのビルからも電波は検知できなかった。心配の必要がなかったのはよいことなのだが、実は各場所の電波強度を調べて記事にしようと思っていたので、少し拍子抜け。しかし念のため、なるべく外へ電波が漏れないように客席側から1枚壁を隔てた冷蔵庫の上にアクセスポイントを設置することにした。

Phaidros Cafeのレイアウト



フリーの無線LANスポットでは ESS-IDは店名にしてアピール

次にアクセスポイントの設定だ。編集部からもらったアクセスポイントはメルコの「AirStation WLA-L11G」。この機種にはルーター機能がないので設定は簡単だった。ESS-IDは「phaidroscafe」、WEPはなしとした。フリーの無線LANスポットなら「any」では?という意見もあるのだが、WEPさえ設定しなければanyじゃなくても簡単につながることに、もし外部から電波を検知した場合にどこの電波なのかをアピールするためにあえて店名にしておいた。前述のとおりPhaidros Cafeの場合、外からは電波を検知しづらいので外に対しては意味はないが、無線LANが使えることを知らずに店内でPCを立ち上げた客に無線LANが使えることを知らせる役目も果たせるので、あえてESS-IDを店名にした。

メルコの機器に付いているプライバシーセパレーター機能はONとした。これはメーカーによって名称が異なるが、ウィンドウズのファイル共有機能用のポートを閉じて無線LANにつながっている機器間でのセキュリティを確保しておく機能だ。無線LANスポットには必須といえるかもしれない。

安価な導入費や回線速度の向上で オーナーはハッピーに

ADSL以外は簡単にできてしまった無線LANスポット化は、オーナーにとってはハッピーだったようだ。アクセスポイントの金額を負担する必要がなく、約1万円するPowerBook用の無線LANカードAirMac Extremeを購入せずにPowerBookは有線で接続することにしたので、オーナーが追加で購入したのは5メートルと15メートルのLANケーブル2本だけと非常に安上がりだった(電話工事費は別)。また、図



店内はこぢんまりとしている。左側の壁を使って夜はビデオアートが上映される。



アクセスポイントは冷蔵庫の上、フロアに面した壁の裏という場所に設置した。



電話端子盤の中。結構ごちゃごちゃしている。



窓側の風景。向かいのビルとの距離感を実感できると思う。近いわりには向かいのビルでは電波を拾えなかった。

無線LANスポット設置の注意点

無線のチャンネルは11ch以下に無線LAN内蔵型のノートPCは、無線に関する電波法規制の異なる海外でも使用できるように、海外で利用不可の12ch～14chはあらかじめ使えないようにしているものが多い。そのためトラブルなくすべての人に無線LANを利用してもらうためには11ch以下で設定することが必須。

店舗周辺の無線LAN状況を考えてチャンネルを設定する。

無線LANクーティリティーやNetwork Stumblerなどのソフトを使って周囲で使われていないチャンネルを調べたうえでチャンネルを決めることはいうまでも

ない。また11ch以下ならどのチャンネルでもいいというわけではない。チャンネル間干渉の問題があり、使用するチャンネルは1ch、6ch、11chのどれかにすることが望ましい。また、工場出荷時のデフォルトのチャンネルが11chになっているメーカーが多いので、将来のチャンネル干渉まで考えると1chか6chを優先して使うのがいいだろう。

他の製品との電波干渉に注意するカフェなどの場合、電子レンジの近くにアクセスポイントを置くと電子レンジ使用時に電磁波が干渉して接続が途切れたりするので、数メートルは離して設置するのが望ましい。

らずも無線LANの電波が周囲からは検知できない環境だったため、外部からの不法なアクセスをあまり気に掛ける必要がなく、安心してサービスを提供できるので気が楽なようだ。そしてなにより、回線速度が速くなったことで、無線LANスポットとしてサービスを提供する以外に、新たにストリーミングなどの映像をカフェで上映する可能性を得られたことも大きな収穫になった。

Phaidros Cafe 紹介

渋谷駅から宮益坂を上がり徒歩3分。
ビデオアートと音楽は、クラフワークがコンセプトの店。定期的にビデオアート上映のイベントを行っている。
営業時間: 12:00～26:00(日～木曜日)
12:00～28:00(金・土曜日)
定休日: 無休
住所: 東京都渋谷区渋谷1-9-8宮益坂センスビル9F
電話: 03-5485-3650

URL <http://www.phaidros-cafe.com/>



インター・タッチ 日本のプリペイド型無線LANサービス ホテルをターゲットにした事業展開で差別化を図る

ホテルをターゲットとしたプリペイド型の無線LANサービスを提供する新しい会社がまた名乗りを上げた。インター・タッチ ジャパン株式会社 代表取締役の吉崎夏来(よしざき なつき)氏に、事業内容と今後の展開について話をうかがった。

深く迅速なサポートに自信 24時間多言語対応の ヘルプデスクがウリ

インター・タッチは、一般読者にはあまりなじみがないかもしれないが、ホテルや空港のラウンジなどで利用できる、多くのインターネット接続環境を手がけている。ノートPCの既存のネットワーク設定を変更することなく、これらの公共の場所でも接続できる「ユニバーサルゲートウェイ接続」の仕組みを自社で開発してサービスを提供するベンダーだ。すでに、日本をはじめ海外でも多くの実績があり、知らず知らずのうちにお世話になっている読者も多いのではないと思う。

9月から開始する無線LANサービスは、事前の会員登録などは必要なくいつでも使えるプリペイド式の課金方式と、回線の常時監視、ヘルプデスクがサービスの特徴となっている。ヘルプデスクについては24時間の多言語対応になっていて、またサポートについてもシステムが自社開発のため複雑なトラブルにもすぐに対応でき、他社と比較して深く迅速なサポートを提供できるとのことだ。

当初、国内ではインターコンチネンタル

東京ベイ、パークハイアット東京、ヒルトン成田の3拠点で無線LANサービスを開始することになっている。

事前登録不要のプリペイド型 LAN設定の変更なしに そのまま使える利便性が高い

利用方法は実に簡単だ。まず、スクラッチ形式のプリペイドカードを購入し、ホテル内でブラウザを立ち上げると認証画面が表示されるので、プリペイドカードに書かれたユーザーIDとパスワードを入力するだけ。WEPは設定されておらず、ESS-IDは“any”もしくは“intertouch”となっていて、事前の設定はほとんどの場合必要ない。会社などで設定したLANの設定はそのままの状態でもインターネットに接続できる。

カードの料金は各ホテルによって設定される。30分利用だと500円～700円、2時間で1,200円～1,800円、12時間で2,000円～3,000円程度となる予定。ただし、分単位で課金を行うため使い切らなかった時間ぶんは最大90日間持ち越される。メールの送受信程度ならかなり使い勝手のある金額だといえる。

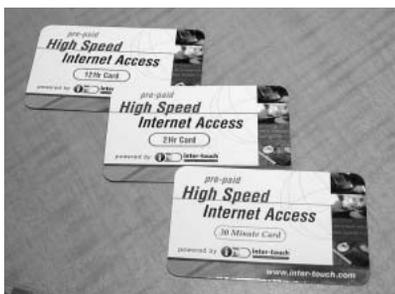


インター・タッチ ジャパン 代表取締役の吉崎夏来氏。

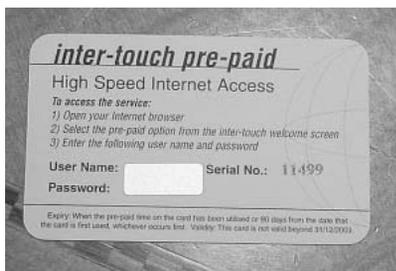
質の高いサービスをすべての人に IPベースのビデオ オンデマンド事業も予定

使い勝手がよさそうなサービスではあるが、他社に比べて後発なのは否めない。そんな不安に対して吉崎氏は「対価さえ支払えばすべての人に一定のサービスを提供するのが無線LANスポットの本来あるべき姿で、あるサービスに入っていないと使えないというのはおかしい」と強調する。質の高いサービスを提供することが望まれているホテルをターゲットにして事業を展開することで、他社との差別化を図っていくそうだ。

来年以降は彼らが手がけたIPインフラを利用して、ホテル内においてIPベースのビデオオンデマンド事業を開始する予定で、有線/無線のインターネット接続の提供だけにとどまらない新しいサービスによっても差別化を強化していくとのことだ。



プリペイドカードのサンプル。



プリペイドカードの裏面に、ユーザーIDとパスワードが記載されている。



ログイン画面。無線LANを接続してブラウザを立ち上げるとこの画面が表示される。



千葉・海浜幕張駅

幕張メディアサーフィン noi cafe

展示会の行き帰りに立ち寄りたい

幕張メッセへの玄関口である海浜幕張駅は、IT系企業も多く仕事や展示会でここを訪れる人は多い。都心からは時間がかかるので展示会などの前後にメールをチェックできれば、気兼ねなく直帰もできるのに……と思っている人も多いのではないだろうか。

海浜幕張駅周辺には現在6か所の無線LANスポットがあるが、その内5か所はNTTドコモのMzoneのスポットになっているため、Mzoneの会員でなければ利用できない。そんななか、唯一フリーの無線LANスポットになっているのが、海浜幕張駅北側出口から徒歩約3分の場所にある、幕張メディアサーフィン内のカフェコーナー「noi cafe」だ。

幕張メディアサーフィンは千葉県が地域の情報化やコミュニティー形成を目的に設立したもので、多くの一般企業や教育機関などの協力で運営されている「IT時代の公民館（パンフレットより転載）」だ。ここでは、毎日PC関連の講習会が行われていて、講習会を中心として地域の交流の場となっている。

そんな幕張メディアサーフィンにあるnoi cafeは講習会参加者の交流スペースでも

あり、誰でも入れるインターネットカフェでもある。

窓が広くて観葉植物が豊富な店内は少し南国っぽい雰囲気、コーヒーは300円、紅茶が380円とリーズナブルだ。一応セルフサービスということらしいが、席に座るとオーダーを取りに来てくれる。無線LANはコーヒーなどをオーダーすれば無料で利用できる。ESS-IDは「makuhari」、WEPはないので、ほとんど設定をすることなく接続できるようになっている。また各テーブルの近くの床には電源の口が用意されていて利用できるが、念のため利用する際はお店の人に一声掛けておこう。ちなみにアクセスポイントはメルコのIEEE 802.11bタイプのものを使用している。また、回線はBフレッツなので、アクセスは非常に快適だ。

noi cafeにはPCが豊富に設置されていて、ビジターとして30分210円で利用でき、プリンター（モノクロ）も使える。メールのチェック程度ならノートPCを持ち込まなくても借りたほうが楽だろう。なお、頻繁に訪れるならメンバーズカードを申し込むといい。1分6円で利用でき、カラープリンターやスキャナーの利用、ビデオ編



幕張メディアサーフィン。内部は講習会用のスペースもあるのでかなり広い。



リラックスできそうなテラス側の席。

集などもできる（別料金が必要）。残念ながら無線LANからのプリンター利用はドライバの設定などが必要になるためサービスしていないとのことだった。

海浜幕張を訪れる機会がある人は行き帰りに立ち寄ってみてはどうだろう。なお、10月からは奥のスペースを改装してブックカフェとして再オープンする予定で、新聞などの書評を取り入れた実験的なカフェになるとのことだ。



noi cafe内。席は2人掛けから10人くらい座れるテーブルまで多彩。



備え付けのPC。PCはここ以外にも店内のいたるところに置かれている。

幕張メディアサーフィン データ

営業時間：11:00～22:00（日祝10:00～17:30）
定休日：月曜（月曜が祝日の場合、翌火曜）
住所：千葉県千葉市美浜区ひび野1-6 パルプラザ幕張内

URL <http://www.makuhari.or.jp/mms/>

電源の利用：可
ESS-ID：makuhari
WEP：なし



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp